



Title	心臓撮影用繼電機の一考案に就て
Author(s)	岩崎, 小四郎; 佐藤, 衛
Citation	日本医学放射線学会雑誌. 1947, 7(1), p. 12-13
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/16583
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

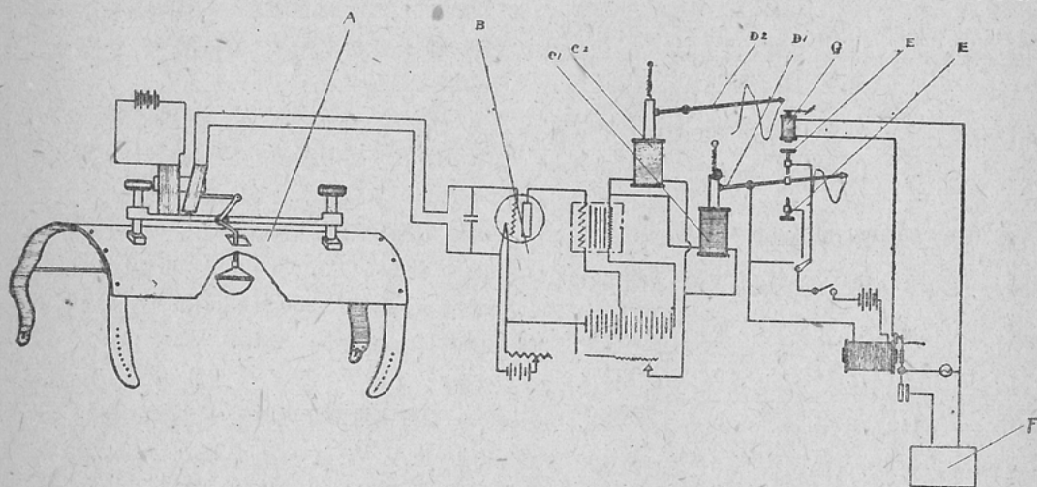
心臓撮影用繼電機の一考案に就て

醫學博士 岩崎小四郎，佐藤一衛

循環器殊に心臓疾患に於ける X線検査は最も重要な診断方法の一であつて、心臓各部の形状並に其機能的状態を精細に観察出来る。心臓の動態撮影法では心臓の搏動を微細に分析して心臓疾患の鑑別に新たな多大の診断的根拠を提示してゐる。即ち擴張時並に收縮時に於ける心臓動態の變化は各疾病により互に相異り之が診断的意義を有するからである。近時大容量の X線發生装置並に管球が出現して、心臓の瞬間撮影及び遠距離撮影

も可能となりつつある。茲に於て心臓の擴張及び收縮時の任意の時期に撮影を行ふ必要が生ずる。

又肺臓の X線診断に顧慮を要するものに肺線翳がある。之は主として血管陰影に因るもので、肺線翳の消長は肺臓の血行状態と共に變化し得る。従て其動脈血行の充盈せざる時期、即ち肺線翳の最も淡い時期に於ける X線像は繊細なる氣管枝壁の陰影のみ明瞭に認め得る。此點からも心臓搏動の任意時に於て撮影し得る装置が必要となる。



附圖の説明

- | | | | |
|------------------|---------|--------------------------------------|---------|
| A 桡骨動脈ヨリスル電氣脈波計器 | B 増幅装置 | C ₁ C ₂ 脈波描記装置 | D 脈波記録針 |
| E 可調繼電器 | F 瞬間撮影器 | G 瞬間撮影器作動時點の記録装置 | |

以上の見地から本装置を考案した 所以であり、
茲に概要を述べて諸彦の高示を仰がんとす。

機構の要領

(特許第 2554 號, 昭和7年6月公告)

橈骨動脈の搏動を電氣的に感應せしめ、更に之
を増幅して脈波を記録せしむ。其記録針(D)に可
調繼電器(E)を設け之を脈波形の任意の位置に於
て繼電し得る如く装置してあるから脈波形の隨意

の位置即ち心臓搏動の任意の時期に瞬間撮影器
(F)を作動せしむ。

瞬間撮影器の作用時點を脈波形上に正確に記録
し置く爲め、更に他の1個の脈波描記装置(C₂)と、
瞬間撮影器と同時に作動し得る記録針(G)とを備
ふ。

拙筆に臨み有益なる助言を賜りたる 逓信省電氣
試験所長大橋幹一博士に謝意を表す。